新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第87号

§ 平成 29 年度新潟県野生生物保護実績発表大会 §

県内に 38 校ある愛鳥モデル校は、野鳥を中心とした野生生物の保護活動を行い、その活動実績を毎年県に報告いただいております。

当センターで 6 月 30 日に書類審査をさせていただき、特に優れた活動を行っている学校を５校選出し、県大会を 8 月 10 日に新潟県自治会館本館で開催しました。大会では、各学校で行われている探鳥会などの愛鳥活動や、地域の方々と一緒になって行っている自然保護活動についての発表がありました。どの学校も熱心に活動している様子がよく伝わる大変良い発表会でした。

審査結果は以下のとおりです。

金賞	南魚沼市立第二上田小学校
銀賞	佐渡市立行谷小学校
銅賞	十日町市立水沢中学校 上越市立明治小学校 上越市立春日小学校

金賞を受賞した南魚沼市立第二上田小学校は、「他の学校と交流をし、自分たちの学校と他の学校のデータを比較して、自分たちの地域の特徴を見つけている点が素晴らしい。野鳥だけでなく、水生生物など他の生物についても広く調べ、多様な生き物が野鳥の生活を支えているという生物多様性の視点を持っているところが良い。」と審査員から高い評価をいただきました。

また、発表会全体を通しての講評は以下のとおりです。「各学校とも長年の蓄積されたデータをまとめ、発表できるようになってきた。大事なのはその中から課題を見つけることである。また、野鳥ばかりでなく、広く生物多様性という観点から調査が行われるようになってきた。更に、環境が変化したのは何故かという考察を深めていってほしい。」

審査員より各校の発表を評価するとともに、今後の取組への期待を述べていただきました。

なお、金賞受賞校は公益財団法人日本鳥類保護連盟主催による全国大会へ推薦しました。

金賞受賞！第二上田小学校

§ 標本作製教室を開催しました §

愛鳥センターには県内各地から毎年 500 羽前後の傷病鳥獣が収容されますが、自然に戻れるのは 3 割ほどで、多くは残念ながら死んでしまいます。

愛鳥センターでは、そのような死んでしまった鳥たちから剥製や翼・肢・骨などの標本を作製して、イベントや展示、学校案内などで利用しています。

7 月 23 日（日）に愛鳥センター2 階研究室において、翼と肢の標本作製教室を開催しました。（対象：高校生以上、参加者：7 名）

集中して作業を進めています

本物の野鳥を利用して標本を作製するといった慣れない作業に、最初はみなさん少しおっかなびっくり進めていたようでしたが、だんだんスムーズになってきました。

完成！見事な出来映えです！

中には、皮が薄くて破れてしまったり、脂がたくさん付いていて取り除くのが大変だったり、と作業が難しい種類の鳥もありましたが、みなさん根気強くコツコツと作り上げていました。

洗って乾かし、綿を巻いて縫合したあとは、形を整えて針で保定すればできあがりです。乾燥後は、愛鳥センターの普及啓発活動で今後利用させていただく予定です。

普段はなかなか見ることのできない野鳥の羽の並びや肢の作りなどもじっくり観察していただくことができ、参加者からは「楽しかったです」「大変良い勉強になりました」という感想をいただきました。

§ 巣箱作り教室 §

野鳥の巣箱作りをとおして、愛鳥精神の高揚を図るとともに、自然のしくみを学習することを目的に「巣箱作り教室」を 8 月 20 日（日）、26 日(土)の計 2 回開催しました。（参加者計：15 組 44 名）

最初に、講師の白井康夫先生に巣箱と野鳥について講義をしていただきました。スズメなどの野鳥はこれまで住宅の屋根の隙間や木の穴に巣を作っていましたが、住宅の構造の変化や樹木が少なくなってきていることから、巣箱を作ってあげることで繁殖の手助けができることを教わりました。その後、板を選んで作業に取りかかりました。設計図をもとに、板に線を引き、その線に沿ってノコギリで板を切ります。釘を打つ箇所にキリで穴を開け、釘を打って組み立てていきます。最後に屋根を蝶つがいで取り付けて完成です！巣箱を設置する場所は、ネコやヘビ、カラスにいたずらされないよう、高さ 3m 以上で、方角は巣穴に冷たい北風が入らない南側もしくは東側。すぐ近くに枝がない場所。また、雨水が入らないよう少し前に傾けで設置すると良いそうです。参加者からは、「初めて参加しました。わかりやすく親の方が夢中になってしまいました。」「とても楽しく、色々と勉強になりました。また家でも作りたいと思いました。」など感想をいただきました。

作成時の様子

完成しました！

§ 新潟県野鳥保護の集い §

新潟県野鳥愛護会との共催行事である「平成 29 年度新潟県野鳥保護の集い(妙高市)」を 6 月 17 日～18 日に妙高市「ホテルアルペンブリック」・笹ヶ峰高原を会場に開催しました。（参加者数：37 名）

○新潟県野鳥保護の集い　17 日(土)16:00～18:30

【講演】「火打山および日本のライチョウの現状
－保全に向けた課題と私たちにできること－」
国際自然環境アウトドア専門学校　長野康之 氏

・日本の高山に生息するライチョウの現状について講演いただきました。県内では火打山に生息するライチョウですが、火打山の個体群は他地域のものと特徴が異なること、少数の個体群が存続してきた理由、近年増加してきたニホンジカやイノシシの食害問題などについてお話いただきました。ライチョウの調査・保全活動を進めるためには今後、バードウォッチャーや登山者の目撃情報が重要になってくるそうです。保全に向けた取り組みや課題についても会場一同じっくり耳を傾けました。

【講演】「上越地域の鳥（山野の鳥を中心に）」
上越鳥の会　曽我 茂樹 氏

・上越鳥の会で長年、観察・調査されてきた上越地域の鳥について講演いただきました。多様な環境がある上越地域では 345 種以上もの野鳥が確認されているそうです。近年 3 か所の池で確認されているカンムリカイツブリの繁殖の経過や、ノジコの生息環境・分布の様子、上越地区に生息する絶滅危惧種などについても美しい写真とともにお話いただきました。

【発表】「上越地方で観察された野鳥」
新潟県野鳥愛護会　古川 弘 氏

・なかなか目にすることのできない珍しい野鳥たちの行動を、動画で発表いただきました。長年の観察経験のもと撮影された映像はとても貴重なもので、会場からは感嘆の声があがっていました。ムラサキサギがヨシの動きにあわせて首をゆらすユーモラスな映像や、ヤマドリのほろ打ちの様子や音声など、一同じっくり見入りました。

○早朝探鳥会　18 日（日）4:30～8:00（晴れ）

・3 班に分かれてそれぞれ観察会をスタートしました。登山道コースでは、コガラやコルリ、ミソサザイなどが見られ、マミジロの声も聞くことができました。林道コースでは、コルリやジュウイチがすぐ近くでよく鳴き、乙見湖ではオシドリを見ることができました。遊歩道コースでは、ドイツトウヒの林でキクイタダキやヒガラのコーラスが聞かれ、キバシリを確認することができました。コルリもよく鳴き、クロジのさえずりも聞くことができました。

観察種：オシドリ、カルガモ、ホシハジロ、キジバト、アオバト、カワウ、アオサギ、ジュウイチ、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、カケス、ハシブトガラス、キクイタダキ、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、キバシリ、ミソサザイ、カワガラス、マミジロ、クロツグミ、アカハラ、コルリ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ニュウナイスズメ、キセキレイ、カワラヒワ、ウソ、イカル、ホオジロ、アオジ、クロジ　合計 47 種

§ 4～6 月の探鳥会・観察会 §

4/23（日）春の渡りを見る会　6:30～9:20　（晴れ）
場所：大峰山　参加者:40 名　観察種：43 種【①】

林道ではミソサザイが元気に鳴き、クロツグミの声も響いていました。コマドリの声が何度か近くで聞こえ、枝の上に止まる姿も見ることができました。オオルリはオスとメスの両方が確認できました。サシバが旋回した後、電柱に止まる姿も確認することができ、春の渡りを満喫することができました。

5/7（日）春の初心者探鳥会　8:30～10:00　（晴れ）
場所：愛鳥センター周辺　参加者:23 名
観察種：18 種【②】

センター前の駐車場では、スズメが巣材をくわえている姿や、巣箱を出入りするところが見られました。新緑の中を進んでいくと、木々の間を飛ぶ青い姿を発見！オオルリのオスが 2 羽もいるのを全員でじっくり見ることができました。

5/14（日）愛鳥週間探鳥会　6:30～9:00　（晴れ）
場所：大峰山　参加者:35 名　観察種：38 種【③】

キジやホオジロの鳴き声を聞きながら道を進むと、ホイホイホイ♪という鳴き声とともにサンコウチョウが通り過ぎていきました。その後、サシバやハチクマが旋回する姿も見られました。サンショウクイやクロツグミ、キビタキは、姿は見られなかったものの、きれいな鳴き声を聞くことができました。

5/28（日）紫雲寺記念公園探鳥会　8:30～10:00
場所：紫雲寺記念公園　参加者:28 名（曇り一時雨）
観察種：21 種【④】（紫雲寺記念公園ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝﾊﾟｰﾄﾅｰ共催）

ホトトギスやカッコウ、クロツグミなど多くは鳴き声のみの確認でしたが、松の木のてっぺんに止まるカワラヒワや電線に止まるホオジロなどをじっくり観察することができました。

6/4（日）三光鳥を聞く会　6:30～9:00（曇り一時雨）
場所：剣龍峡　参加者:33 名　観察種：29 種【⑤】

最初はサンコウチョウの鳴き声がよく聞こえていましたが、その後はあまり鳴いてくれず、姿もちらっとだけでした。杉林の中ではアオバトやアカショウビンの鳴き声が聞かれ、林道ではキバシリの親子 4 羽を確認することができました。川の中でエサを探すカワガラスや、エサを運ぶキビタキなども見ることができました。

三光鳥を聞く会のようす

探鳥会の確認鳥種

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	ヤマドリ	●		●		
2	キジ	●	●	●	●	
3	カルガモ			●	●	
4	キジバト	●	●	●	●	●
5	アオバト					●
6	アオサギ	●		●		
7	ホトトギス				●	
8	ツツドリ			●		●
9	カッコウ				●	
10	ハチクマ			●		
11	トビ	●	●	●		
12	サシバ	●		●		
13	ノスリ	●				
14	クマタカ			●		
15	フクロウ		●			
16	アカショウビン					●
17	カワセミ	●				●
18	コゲラ	●	●	●	●	●
19	アオゲラ	●		●		
20	サンショウクイ			●		●
21	サンコウチョウ			●	●	●

No.	種名	①	②	③	④	⑤
22	モズ	●				
23	カケス	●		●		●
24	ハシボソガラス	●		●		●
25	ハシブトガラス	●	●	●	●	●
26	ヤマガラ	●		●		●
27	ヒガラ	●		●		●
28	シジュウカラ	●	●	●	●	●
29	ツバメ	●	●	●	●	
30	イワツバメ	●				
31	ヒヨドリ	●	●	●	●	●
32	ウグイス	●		●	●	●
33	ヤブサメ	●		●		●
34	エナガ	●		●		
35	オオムシクイ				●	●
36	エゾムシクイ	●	●	●		
37	センダイムシクイ		●	●		●
38	メジロ	●	●	●	●	●
39	キバシリ					●
40	ミソサザイ	●				
41	ムクドリ	●	●	●	●	
42	コムクドリ				●	

No.	種名	①	②	③	④	⑤
43	カワガラス					●
44	クロツグミ	●		●	●	●
45	コマドリ	●				
46	コルリ	●				
47	ジョウビタキ	●				
48	コサメビタキ					●
49	キビタキ	●		●	●	●
50	オオルリ	●	●	●		●
51	スズメ	●	●	●	●	
52	キセキレイ	●				
53	ハクセキレイ	●				
54	カワラヒワ	●	●	●	●	●
55	マヒワ	●				
56	シメ			●		
57	イカル			●		●
58	ホオジロ	●	●	●	●	●
59	カシラダカ	●				
60	ノジコ	●				
61	アオジ	●	●	●		
62	クロジ	●				
	計	43	18	38	21	29

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成 29 年 4 月 1 日～7 月 31 日までの収容数は、鳥類 41 種 156 羽、獣類 2 種 3 頭で、昨年度の同時期（鳥類 196 羽、獣類 0 頭）と比べ鳥類は減少し、獣類は増加した。

平成 29 年度　4 月～7 月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数
（鳥類）							
1	キジ		4	1		3	0
2	コハクチョウ	4	5		1	1	7
	オオハクチョウ	1				1	0
	マガモ	1					1
3	カルガモ	1	9			4	6
4	カイツブリ		1	1			0
5	カンムリカイツブリ		1			1	0
6	キジバト		4	1		3	0
7	ゴイサギ		1				1
8	アオサギ		3			3	0
	ダイサギ	2					2
9	ウミネコ	1	3			2	2
	セグロカモメ	1					1
10	オオセグロカモメ	1	1			2	0
11	ミサゴ		2				2
12	トビ	3	9			3	9
13	ハイタカ		1			1	0
14	オオタカ		1			1	0
15	サシバ		1				1
16	ノスリ	1	1			1	1
	クマタカ	1					1
17	オオコノハズク		3	2		1	0
18	フクロウ		6	2		3	1
19	アオバズク		2	2			0
20	トラフズク		4	3		1	0

収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数
21	アカショウビン		3			3	0
22	チョウゲンボウ		5	3			2
23	ハヤブサ		1			1	0
24	モズ		1			1	0
25	ハシボソガラス	1	1				2
26	シジュウカラ		3	1		2	0
27	ヒバリ		1			1	0
28	ツバメ		16	3		12	1
29	イワツバメ		3			2	1
30	ヒヨドリ		3			2	1
31	センダイムシクイ		1			1	0
32	ムクドリ		10	1		8	1
33	コムクドリ		1			1	0
34	ノゴマ		1			1	0
35	ジョウビタキ		1			1	0
36	キビタキ		1			1	0
37	スズメ		23	5		18	0
38	ハクセキレイ		9			9	0
39	カワラヒワ		4			4	0
40	ドバト		4	4			0
41	不明		2			2	0
小計		18	156	29	1	101	43
（獣類）							
1	ノウサギ		1	1			0
2	ムササビ		2			1	1
小計		0	3	1	0	1	1
合計		18	159	30	1	102	44

【愛鳥センターからのお願い】

釣り糸や釣り針は持ち帰りましょう

愛鳥センターに収容される野鳥たち（特にカモメ類）の中には、釣り糸（テグス）や釣り針による被害を受けたものが多く見られます。

池や海岸に捨てられた釣り糸にからまると、身動きが取れなくなったり、血が通わなくなって足が取れてしまったりします（釣り糸は丈夫なためなかなか切れず、しかも腐りません）。釣り針がついたまま捨てられた魚やルアーなどをエサと間違えて飲み込むものもいます。

針がのどの奥深くに食い込むと、エサが食べられず弱って死んでしまいます。

予防はかんたん。**「釣り糸や釣り針を捨てない」ことです。**捨てられた釣り糸や釣り針はゴミとなるだけでなく、野鳥の命も奪っているのだということを多くの方に知っていただき、基本的なマナーを守るということを心掛けていただければと思います。

§ 最近県内で観察されているコウノトリについて　　所長　伊藤　浩 §

羽を休める「きずな」くん

愛鳥センター紫雲寺さえずりの里では、皆様から県内で観察された野鳥について、情報をいただく機会がありますが、今年度はコウノトリに関する観察記録を多くいただきました。

コウノトリは、かつてはトキと同じように日本各地の水辺で観察された大型の鳥で、昭和 31 年には特別天然記念物の指定を受け、人工飼育による増殖も試みられてきましたが、日本で繁殖していたコウノトリの野生個体群は昭和 46 年に絶滅し、それ以前から飼育されていた日本産の最後のコウノトリも昭和61 年に死亡しました。

それ以降も全国各地でコウノトリの飛来が観察されていますが、主に冬期にロシアなどから渡ってくるコウノトリで、県内でも数年に 1 回程度の観察記録があります。

兵庫県では昭和 60 年にロシアから 6 羽の雛を譲り受け、繁殖の試みが始まり、平成元年にはそのコウノトリから雛が誕生し、以後は毎年繁殖に成功しています。飼育下での増殖が進められた結果、飼育下のコウノトリは、平成 10 年には 50 羽を、平成 14 年には 100 羽を超え、平成 17 年からは野生復帰に向けた試験的な放鳥が兵庫県内で行われてきました。平成 19 年には、放鳥したコウノトリからの初めてのヒナの巣立ちが確認されています。

その後も野生復帰への取り組みが続いていますが、現在は兵庫県豊岡市の保護増殖センターで約 100 羽が飼育され、またその周辺を中心に 100 羽程度が野外で観察されており、その飛来は全国で確認されています。平成 27 年からは、兵庫県以外に千葉県野田市や福井県越前市からの試験放鳥も行われるようになりました。

今年度はこの放鳥コウノトリに関する飛来情報をたくさんいただいています。放鳥されたコウノトリが新潟県内で最初に確認されたのは、平成 28 年 10 月に栃木県小山市付近から新潟市西蒲区に移動してきた「きずな」くん（J0127）［足環の色　右：黄黒　左：黒赤 I です。平成 28 年 3 月に千葉県野田市の「こうのとりの里」で生まれ、6 月に放鳥された 2 羽の雄の内の 1 羽です。平成 29 年 3 月下旬までは長く西蒲区付近で過ごし、観察されていましたが、3 月下旬に長岡市付近へ移動し、その後 4 月からは新発田市付近や三条市付近、田上町付近にも移動していたようです。平成 29 年 7 月頃から阿賀野市付近に移動し、9 月になって新潟市付近から長岡市付近に移動し、中之島地区で餌を取る様子が観察され、皆様から情報をいただきました。

平成27年7月に千葉県野田市から放鳥された雌の「みき」ちゃん（J0116）［足環の色　右：黒縁 左：青黄］は、平成 27 年には栃木県から福島県を経て宮城県に入り、その後西日本に移動して、平成 28 年から平成 29 年 3 月までは岡山県、愛媛県、滋賀県など各地で滞在していましたが、平成 29 年 4 月 10 日頃に十日町市付近に入り、その後 4 月下旬には新発田市付近を経由して、5 月からは山形県酒田市付近で滞在した後、8 月に秋田県に入り、9 月現在も滞在しているようです。

カエルを食べる「きずな」くん

また、福井県越前市で平成 28 年度に放鳥された兄弟 2 羽の内、雌の「さき」ちゃん（J0139）［足環　右：黄黒　左：赤緑］は、平成29年4月28日に石川県から富山県を経て糸魚川市に入り、上越市付近で滞在していましたが、5 月 2 日に柏崎市から長岡市を経て新潟市に入り、3 日から新発田市や胎内市で観察され、多くの情報をいただきました。その後村上市や関川村付近で滞在していましたが、8 月 4 日に新潟市から阿賀野市付近に入り、8 月中旬には長岡市付近に移動し、9 月現在は、長野県上田市付近に滞在しているようです。

今回情報をいただいた放鳥コウノトリには、いずれも GPS 発信機が装着されており、位置情報は一日間隔等でそれぞれの施設で受信されています。一見するとアンテナはコウノトリの背中に刺さっているように見え、またパネルが光る発信機が大きく見える事もあります。

位置情報に関する事は、野田市や福井県のホームページで確認できます。これからも県内各地で観察されると思いますが、見かけた際には静かに、優しい気持ちで観察していただければ幸いです。

背中に見えるのは GPS 発信器です

§ 工作教室 §

バードフィーダーとバードテーブルが完成！

今年で 3 回目を迎えた「工作教室」は、かんたん工作で「バードフィーダー（野鳥の餌置き）を作成しょう！」と題して、自宅に野鳥を招くための餌置きを作成しました。（開催日：7 月 30 日（日）、参加者：7 組 19 名）

最初に愛鳥センター所長から、バードフィーダーを設置するに当たっての注意事項について、また野鳥が好む餌についてのお話を聞いた後、作業に入りました。今回使用した材料はペットボトル、牛乳パックなど身近にあるものを使って作成しました。

ペットボトルに穴を開け、野鳥の止まり木となる割り箸を差込み、餌をついばむ口をあけ、キャップに針金を通してつり下げ型のバードフィーダーを作成しました。

次に、牛乳パックの 4 つの面に窓を開け、1 リットルパックを短くカットし底をくっつけた後、上部にテグスを通してこちらもつり下げ型のバードフィーダーを作成しました。

最後は、合板に木材を釘で固定したバードテーブルを作成しました。

参加された方々は小学生連れのご家族ということで、「夏休みの工作にピッタリと思って参加しました。思ったよりかんたんで子供たちも楽しく工作できました。」などのご感想をいただきました。

4～7 月の来館者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	計	累計
来館者	831	3, 464	1, 493	763	6, 551	605, 038

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 29 年 5 月～平成 29 年 8 月 **3, 800 円**

累計**２７９，０２５円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。
今後ともご協力をお願いいたします。

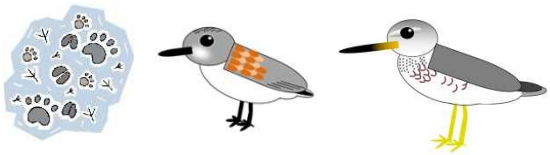
1 月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・秋の渡りを見る会（ビュー福島潟駐車場集合）
　10/22（日）　9:00～11:00
・紫雲寺記念公園探鳥会（愛鳥センター集合）
　10/29（日）　9:00～10:30　定員：20 名
　※この探鳥会は申し込みが必要です。
　紫雲寺記念公園管理事務所 0254-41-3740
・冬の初心者探鳥会（瓢湖白鳥会館駐車場集合）
　11/ 12 （日）　8:00～ 9:30
・鳥屋野潟市民探鳥会（鳥屋野潟公園東屋「いやしの庭園」（中央区鐘木）集合）
　12/ 3 （日）　8:30～10:30
・五十公野公園探鳥会（五十公野公園駐車場集合）
　12/10（日）　9:00～11:00

観察会、講座

・足跡ウォッチング（愛鳥センター集合）
　1/28（日）　9:00～11:00



講演会ほか

・愛鳥講演会（県立生涯学習推進センター）
　11/23（木･祝）13:00～15:30
　内容：テーマは「渡り鳥」です。
　講師：髙辻　洋　氏（新潟県野鳥愛護会）
　　伊藤泰夫　氏（日本鳥類標識協会新潟グループ）
　参加費：無料　/　定員：150 名（先着）
　申込：11 月 15 日（水）までに愛鳥センターへお申込みください。
・冬季特別展（2 階ロビーで展示）
　11/3（金）～2/18（日）
・野鳥写真展開催
　県内で撮影した野鳥写真を募集します。
　詳細な応募条件等は HP をご覧いただくか、直接愛鳥センターへお問い合わせください。締切：平成 30 年 1 月 7 日（日）

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp